

# 連載 ツールマニアックス TOOL MANIAX

第2回

## インスペクターの道具について語ろう!

インスペクターの道具にまつわる偏愛と発見! 何気なく使っている道具に対するこだわりをたっぷり語っていただくツールマニアックス。第2回は道具を語らせるならこの人! と様々な方からお聞きしている中部エリア部会、加藤大輔部会長からお話をお聞きしました。

リフォームやリノベーションの設計・施工、現場調査を20年にわたって行ってきた加藤さん。ホームインスペクターとしても第2回試験合格組の古参です。ものすごくこだわった高価な機器などが飛び出してくると思ったのですが…

聞き手 ホームインスペクターズジャパン編集部 三原広聡



中部エリア部会長  
加藤大輔氏

### ベーシックなものが面白い

編集部 加藤さんは道具へのこだわりがすごいとお聞きしているのですが、今回はどのようなものをご紹介いただけますか?

加藤氏 今回、特にこれにこだわってという機材よりは、もっとベーシックな道具に着目してみました。紆余曲折を経てこれに至ったというモノがあるんですよ。

編集部 それは何ですか

加藤氏 この子です。指差し棒ですね。



編集部一同驚きの目に

### 道具は使い方差が出ます

加藤氏 で、実は使い方にちょっとしたコツがあるんです。近くのものそのまま指して撮れば良いのですが、劣化箇所が高いところにあるとしますよね、そういう時に遠くを指して撮影しても写真にすると指の部分が小さすぎて結構わかりにくいのです。そこで、指の部分を手前に持ってきて劣化箇所を指すなど、撮り方も工夫しています。

編集部 遠近法を巧みに使ってますね。これはスゴイ!



加藤氏 以前は劣化事象を認められる部分を撮影して、後から画像加工で矢印を追加したりしていたんですよ。ご承知のように僕たちは何百枚も写真を撮って、何十枚も報告書に掲載するわけです。そうなると画像加工の時間も馬鹿になりません。そこで、撮影時に矢印に変わるものを映しこんでしまおうと考えたのです。

編集部 なるほど! 目からウロコですね!

加藤氏 ですから、僕にとってはあくまでも省力化のツールなんです。

編集部 この指差し棒ってどこで手に入れるのですか? 指が付いていますし。

加藤氏 普通にホームセンターやアマゾンなどでも見かけますよ。売り場でこの指付きを初めて見た時に一目ぼれしました。DOGYUという打診棒やパールなどを出しているメーカーさんの商品です。

加藤氏 実地研修などでは、受講者の皆さんにお勧めしているテクニックです。

編集部 そういえば、先ほどこの棒の事を「この子」って言っていましたよね。

加藤氏 僕らは単独で仕事することが多いので、まさに道具は相棒なんですよ。仕事に故障しても困るので、メンテナンスには気を使います。この子は3本目なんですけど、伸縮を繰り返すので伸び縮みさせる部分が結構ダメになるんですよ。多分そんなに頻繁に使うように作られていないのかな。あと、お客様に現場で説明するときにも重宝していますよ。

### 道具のトラブルは命取り

加藤氏 先ほど、機材のトラブルの話がありましたが、例えばハンドライトですね。調査中に電池が切れるとイヤですよ。僕も最初の頃は便利だと思って充電式のライトを使っていました。

ところが、充電式は使っている途中に容量が低下するとどうしようもないわけです。充電不良の場合もありますし。そこで、乾電池式を使うようになりました。カメラなどの製品もそうですね。できる限り乾電池が使えるものにしていきました。

編集部 乾電池だと切れてもその辺で買えますものね。

加藤氏 はい、もちろん予備も携帯しますし。ところが最近ではリチウム電池の性能が上がってきたわけですよ。大容量で電池の「持ち」が良く、能力も高くなってきました。そこで最近では、また充電式のリチウム電池を使う道具に切り替えているところなんです。リチウム電池だと1回の充電で丸1日持ちますし、かなり明るいんですから。

編集部 確かニッカド(ニッケルカドミウム)電池の時って、300回くらいしか再充電できませんでしたよね。

加藤氏 はい。その辺も改良されていますし、昔は容量が半端に残っているときの追充電も良くないという話がありましたよね。リチウムならその心配もありません。あと、価格も安くなってきました。あと、充電電池と乾電池のどちらでも使える機器もあります。ただ、充電器の種類が増えてしまい、最近では机の周りのコンセントが足りなくなってきました。先日コンセントを増設しました。

### ちょっと特殊な道具も見せてもらいました

加藤氏 協会としては屋根に乗らないという方針ですが、依頼者としては屋根の状態を知りたいと思うので、僕は基本料金に入れていきます。その時に使うのがこの高所撮影用のロッドですね。

編集部 なるほど、会報にも広告が載っているING様の「たかみ君」みたいな道具ですね。これは先端にカメラが付いているのですか?

加藤氏 そうです。ワイヤレスカメラが付いています。手で屋根の状態をモニターしながら、ワイヤレスでシャッターを切ります。ポールは7mの伸縮式で、カーボン製です。この高さで標準的な2階建て家屋はカバーできます。

編集部 あ、腰のところは応援団の旗みたいな仕組みですね。これ、結構つらくないですか?

加藤氏 結構大変ですよ。揺れますし。屋根に直接乗るのは危険を伴いますので、転落防止対策なども考えなくてはなりません。こちらの地域では瓦なので滑りし、高所作業はリスクが高いです。

編集部 これって、加藤さんの魔改造なんですか?

加藤氏 Bi Rodというちゃんとした製品です。アマゾンなどで探せばありますよ。ただ、このワイヤレスカメラがカシオ製なんですけど、廃版機種でもう手に入らないんですよ。

編集部 充電電池→乾電池→充電電池と先祖返りしたんですね。このハンドライト自体もこだわりがありそうに見受けられるのですが…これはLEDですよね?

加藤氏 今はほとんどLEDですね。まず電球に比べて明るいんです。光の広がり具合などでLEDならではの性質はあります。光の直進性が高いんですね。あと、応用性が高い程度精度は低くなりますので、そこは悩みどころ。使うシチュエーションで仕様を決めることが大切です。インスペクション業務では200~300ルーメン程度のもので良いですね。これはどの位かな…370ルーメンですね。これももう5~6本目です。

編集部 あ、手に取ると結構小さいんですね。

加藤氏 筐体は固いので、落とさないように腰袋に止めていますが、モノによっては樹脂で覆われているものもあります。小屋裏など狭いところに入るので道具はコンパクトな方が良いでしょう。



これは2代目機種で、スベアとして初版の機種も持っています。とはいえ、今ではGo-Proなども使えますから大丈夫。スベアと言えば、僕は基本的に、道具は全てスベアを持って歩くようにしています。調査が滞るとお客様にもストレスが掛かりますから。

編集部 さすが、プロフェッショナルですね。このロッド、欲しい人多いと思いますよ。都市にいますとドローンはまだまだ使いづらいと思いますし。

加藤氏 確かに大きな規模の調査ではドローンが普及してきましたが、ホームインスペクションで行う調査ではまだまだこちらの方が現実的だと思いますね。気候状況で飛ばせないというリスクもありますから。

編集部 とても面白いお話をお聞かせいただきました。加藤さんの話ってとても哲学的ですよ。道具哲学。インスペクション初心者の皆さんに何かアドバイスはありますか?

加藤氏 とりあえずまずやってみる事ですね。ハンドライト一本でも良いので。あとは必要に応じて揃えていけば良いです。僕もホームセンターとか好きですから、工夫そのものが楽しい部分もあります。あと、作業着も変わってきましたよね。これからのサービスでもありますが、専門家として受け入れていただけるような装いも大切です。清潔感とか大切ですし、パッと見てインスペクターと思ってもらえるスタイルが目標ですね。若い人にも目指していただけるように、見てカッコよいことも大切だと思います。

編集部 カッコよいは正義! ということで、加藤さん、ありがとうございました。